

ご利用案内

通常投映日時＝土・日・祝日

通常投映時間・内容(7月～9月)

11:00(幼児～小学生向け)	13:30(小～中学生向け)	15:00(高校生～大人向け)
ほしふるよるに 妖怪ウォッチ プラネタリウムは星と妖怪がいっぱい！ ほしのおはなし(星空解説)	アリオンとイルカ 妖怪ウォッチ プラネタリウムは星と妖怪がいっぱい！ 星空解説 ※9/17(土)「親子プラネタリウム」は別内容となります。	宇宙の中のわたしたち 星と海に抱かれて アジアヒーリング 星空解説

※ご希望による投映も行います。事前予約が必要となりますので、詳細はお問い合わせください。

観覧料

高校生以上(個人)	510 円
高校生以上 (団体 20 名以上)	410 円
中学生以下	無料

☆博物館パスポート 1 枚につき、
高校生以上 1 名無料

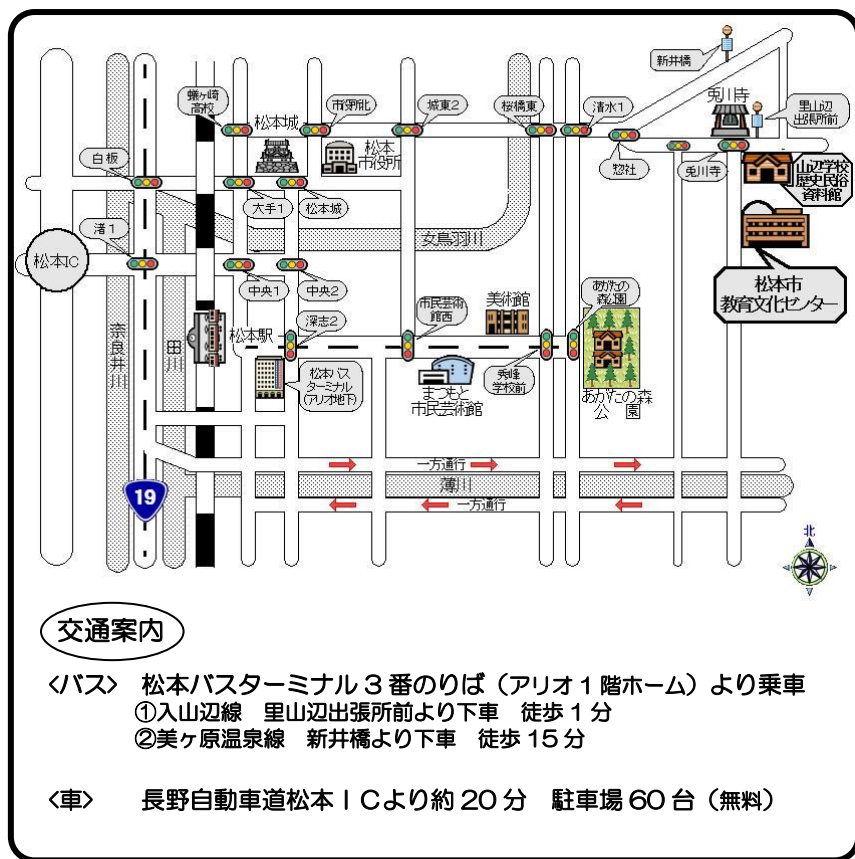
☆転入世帯優待券 1 枚につき、
1 世帯家族無料

☆障害者手帳持参により、
本人とその介助者 1 名無料

☆市内在住 70 歳以上の方は無料

☆その他、各種イベント開催時には無料

アクセス

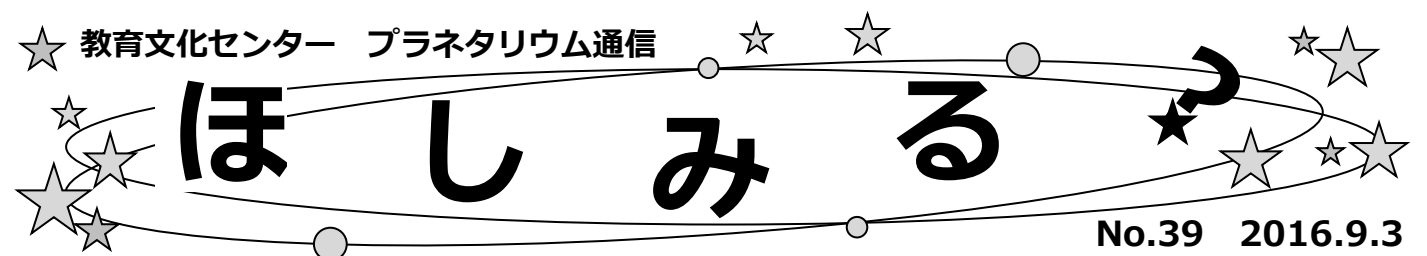


松本市教育文化センター

〒390-0221 松本市里山辺 2930-1

TEL:0263-32-7600 FAX:0263-32-7604

E-mail:kyoubun@city.matsumoto.nagano.jp



月と日本のこよみ

今年の 9 月 15 日は「中秋の名月」となります。収穫に感謝してお月見を行ったり、月の満ち欠けで暦を作ったりと、日本では月の動きと人々の生活とが深く結びついてきました。

月の和名(月相により定義)

旧暦 1 日	旧暦 2 日	旧暦 3 日	旧暦 7 日	旧暦 10 日	旧暦 13 日	旧暦 14 日	旧暦 15 日
しんげつ 新月 さく 朔	ふつかづき 二日月 せんげつ 織月	みかづき 三日月 まゆづき 眉月	じゅうげん 上弦の月 なにかづき 七日月	とおかんや 十日夜の月	じゅうさんやづき 十三夜月	じゅうよっかづき 十四日月 こもちづき 小望月	まんげつ 満月 もちづき 望月
旧暦 16 日	旧暦 17 日	旧暦 18 日	旧暦 19 日	旧暦 20 日	旧暦 23 日	旧暦 26 日	旧暦 30 日
いざよいづき 十六夜月	たちまちづき 立待月	いまちづき 居待月	ねまちづき 寝待月 ふしまちづき 臥待月	ふけまちづき 更待月 ふしなかづき 亥中の月	かげん 下弦の月 にじゅうさんやづき 二十三夜月	ありあけづき 有明月	みそかづき 三十日月 つごもりづき 晦日月

十五夜と十三夜

旧暦の 8 月 15 日の夜の月は「中秋の名月」と呼ばれ、日本では古くからの風習でこの日にお月見をしています。月見団子や里芋などをお供えし、芒や萩などの秋の七草を飾りつけ、お月見を楽しみます。「十五夜」の別名でも知られていますが、里芋をお供えするところから「芋名月」とも呼ばれています。

月見の風習は奈良～平安時代に伝わったと言われていますが、1 か月後の旧暦の 9 月 13 日の夜にも少し欠けた月を楽しみました。こちらの月見は「十三夜」や「後の月」と呼ばれ、十五夜に次いで月が美しく見えると言われています。また、十三夜の月見では栗や枝豆をお供えしたので、「栗名月」や「豆名月」とも呼ばれています。

十五夜と十三夜のどちらか片方しか見ないことを「片見月」といい、縁起が悪いとされています。

2016 年の十五夜は 9 月 15 日(木)、十三夜は 10 月 13 日(木)です。



月の満ち欠けと旧暦

月の公転により地球から見た太陽と月の角度が動き、月の形が変化する様子を「月相」と言います。

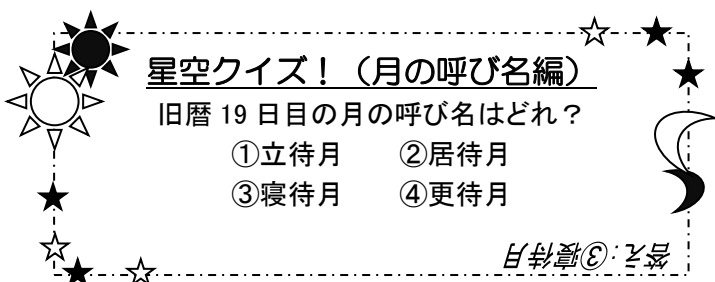
旧暦では月相によりひと月が定められました。月の初日は朔日(ついたち)、最終日は晦日(つごもり)と呼ばれ、それぞれ「月立ち」「月ごもり」が語源です。

月の名称には旧暦の日付や形に対応するものがありますが、特に満月前後は月が見える時間帯に関する名称が多くあります。満月後、ためらうように出現する「十六夜」、立って待っていると現れる「立待月」、座って待っていると現れる「居待月」、寝て待っていると現れる「寝待月」など、月の出が遅くなるごとに変わります。

満潮と干潮

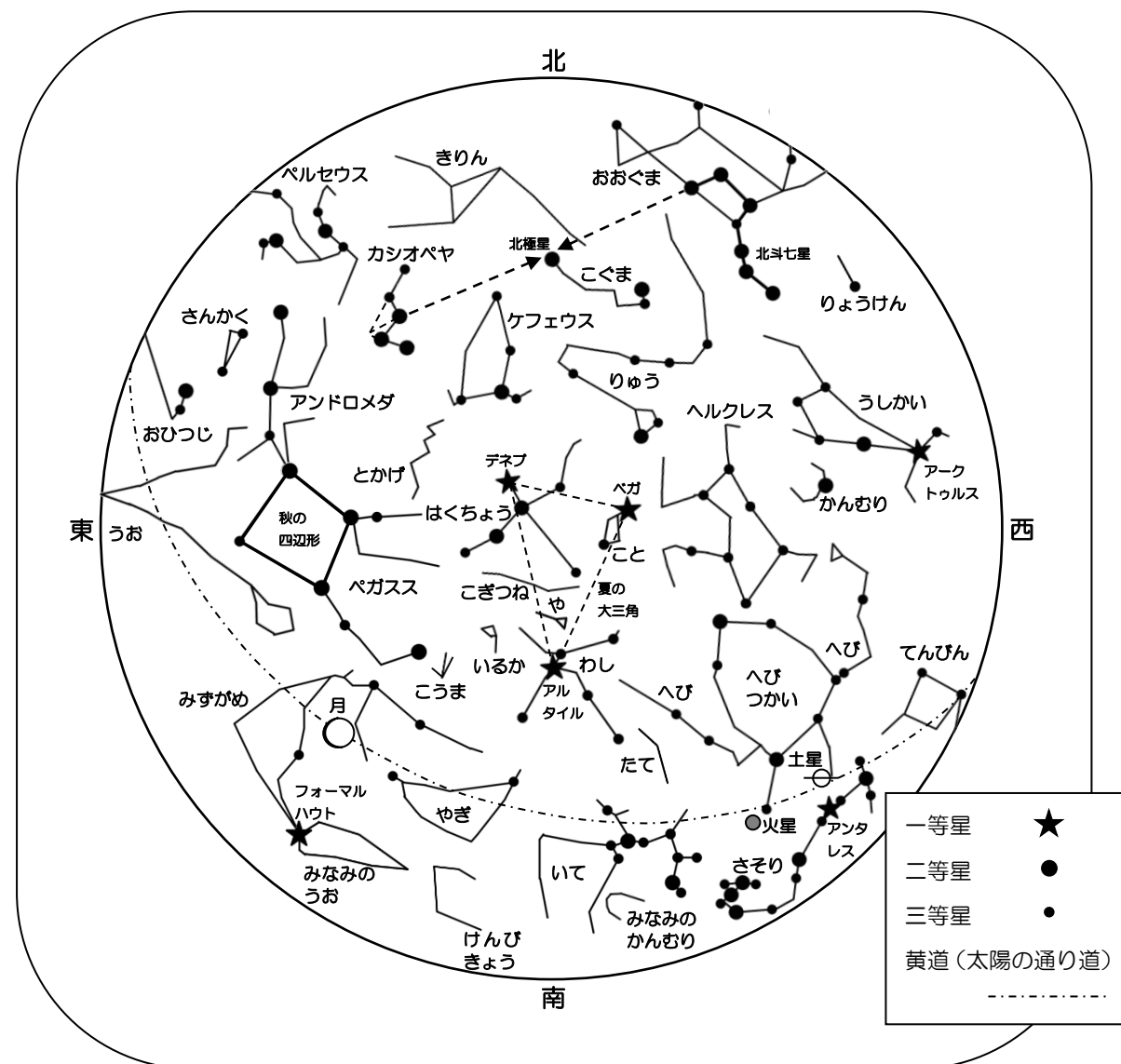
潮の満ち引きは、月の引力によって海の水が引かれるために起こります。水位が高い状態を「満潮」、低い状態を「干潮」といい、それぞれ 1 日 2 回起こります(まれに 1 日 1 回の場合もあります)。

満潮や干潮のように水面の水位が上下する現象を「潮汐(ちようせき)」と言います。月が地球に及ぼす引力と、月と地球の共通重心の周りを地球が回転することで生じる遠心力とを合わせた「潮汐力」によって、地球が引き伸ばされることで水位が高いところと低いところが発生し、潮汐が起こります。



季節の星空

9月15日20時頃の松本の星空



9月の主な天文情報

- 1(木) 新月
- 9(金) 月と土星、火星が接近
- 10(土) 土星とアンタレス(さそり座の1等星)が最接近
- 15(木) 中秋の名月(十五夜)
- 17(土) 満月(半影月食)
- 22(木) 秋分の日
- 29(木) 水星が西方最大離角

西方最大離角→地球から見て、内惑星が太陽から西へ最も離れて見える角度です。地上からは、日の出直前の東の空で惑星が見えます。

半影月食

月食は、太陽が作る地球の影に月が入り込む現象です。地球の影には、太陽光が遮断された濃い影である「本影(ほんえい)」と、本影をとり囲む薄い影である「半影(はんえい)」があり、半影に月の一部、あるいは全体が入り込むと半影月食となります。今回は17日の夜1時53分～明け方5時56分まで起こり、いつもより微妙に薄暗い満月として見えます。

中秋の名月

中秋の名月とは、秋の真ん中にあたる旧暦の8月15日に見える月のことです。旧暦では新月の日が月初めとなり、中秋の名月は新月から数えて15日目となります。今年は9月15日が旧暦の8月15日にあたります。一方、満月は地球からみて太陽と月が反対方向になる時を指し、必ずしも新月から15日目になるとは限りません。そのため、中秋の名月と満月が一致しない年もあります。今年の中秋の名月は、満月の2日違いとなり、これは2007年以来9年ぶりとなります。

☆ ☆ ☆ プラネタリウム事業案内 ☆ ☆ ☆

9/10(土) ☆星空散歩・星の観望会 18:30～20:00

天体望遠鏡を使って、季節の天文現象を観測します。
(観測ができない天気の場合はプラネタリウムをご覧ください。)
受付開始:9/3(土) 8:30より
定員:40人(小学生以上。高校生以下は保護者同伴)

9/17(土) ☆親子プラネタリウム 13:30～

親子連れの方を中心に楽しめる、番組の投映と解説を行います。
今回のテーマは「月」です。
申し込み不要。当日先着90人

9/25(日) ☆太陽観測 9:00～10:15

天体望遠鏡を使って、太陽のプロミネンスや黒点を観測します。
専用のフィルターを使用し、安全に観測できます。
(観測ができない天気の場合はプラネタリウムをご覧ください。)
受付開始:9/18(日) 8:30より
定員:15人(小学生以上。小学生の方は保護者同伴)

※事前申し込みが必要な事業についての受付は、電話受付のみとさせていただきます。

特別講演会

テーマ「ハワイから宇宙の謎に挑む

～すばる望遠鏡と超大型望遠鏡 TMT(30メートル望遠鏡)～」

国立天文台 TMT 推進室長・教授である臼田知史先生のお話をお聞きします。

☆日時:平成28年10月2日(日) 14時～15時30分(開場13時30分)

☆会場:教育文化センター3階ホール ☆定員:先着150人 ☆入場料:無料

☆対象:小学校高学年～高校生向きですが、どなたでも

☆申し込み方法:「インターネット」または「電話」でお申し込みください。

宇宙企画展

「CDで分光器をつかって、いろいろな虹を見よう」

国立天文台天文情報センター専門研究員である臼田一佐藤功美子先生を講師に迎え、CDで分光器等を作る工作教室を行います。

☆日時:平成28年10月2日(日) 11時～12時30分

☆会場:教育文化センター2階206会議室 ☆定員:先着30人 ☆受講料:無料

☆対象:小学校高学年～高校生(小学生は保護者同伴)

☆申し込み方法:「インターネット」または「電話」でお申し込みください。